

2016/3/8
第 83 号
(28 年 3 月号)

長野県総合教育センター通信

しののめ



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail :kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

所長あいさつ	1
企画調査部より	
総合教育センター 来年度事業の重点	2
教科教育部より	
ねえ、学力って何？教えて！（技術・家庭科 技術分野編）	3
【特集】センター研究発表会	4

「教育のイノベーション」

長野県総合教育センター所長 三浦 章



センター研究発表会には、多くの皆様にご来場いただき、ありがとうございました。新企画「徹子の部屋（サワコの朝）」風の花岡清二氏との対談もご好評をいただきました。感謝申し上げます。

講演会には、教育界からではなく、産業界から講師をお呼びしました。「教育再生」、「21世紀型スキル」、「アクティブ・ラーニング」等々の言葉で代表される、「教育のイノベーション」を産業界から学びたいという趣旨からです。

「言われたことがちゃんとできない」児童・生徒を「言われたことがきちんとできる」や「言われなくてもすべきことができる」児童・生徒への教育から「何をすべきかを自ら考え」「自分で問いが立てられる」児童・生徒を育む教育へと1ランク上の教育のイノベーションが求められています。

花岡氏は、イノベーションを起こす組織風土として、①フラットな組織運営（肩書で仕事をしない）②自由闊達な議論（組織の持っている知を最大化する）③1つの目標に向かってスクラムを組む④人の多様性を受け入れる を挙げられました。先ずは、センターが率先垂範を心掛けたいと考えています。

本年度、研修講座をはじめとして、各事業にご理解・ご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、来年度も引き続き、多くの皆様方に「明るく、楽しく、前向きに（ATM）」当センターをご活用いただけますようお願い申し上げます、1年間の御礼の挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。



平成28年度 総合教育センター事業の重点

研修事業

アクティブにつなぐ研修講座

教員をアクティブに、子どもをアクティブに
総合教育センターがつなぐ

教員がアクティブになる授業づくりを提案

- ◆教師力の向上を図り、学校力・学力の向上へつなげ、子どもをアクティブにします
- ◆生きる力を育み、各教科におけるつけるべき力をつける教員をめざします
- ◆特別支援教育の視点を生かした授業のユニバーサルデザイン化を提案します
- ◆演習・実習・少人数協議により教員同士をつなげます
- ◆喫緊の教育課題に対応する豊富な研修講座群

アクティブに!

学校のニーズに応える希望研修講座

- ◆学校力・学力の向上を目指す研修講座群の充実
- ◆郷土、信州から学び・伝承する講座に「信州体験マーク」
- ◆参加しやすい土曜講座の開講(7/2, 11/19)

新設講座
多数開設

信州

土曜
9講座

帰校後のICT活用をサポート

- ◆すぐに使えるものから最新の利活用まで体験から実感・納得へとつなぎます
- ◆帰校後のICTの活用につながる講座に「ICT活用マーク」

ICT活用

ライフステージに応じて総合的な教師力の向上をめざす指定研修

- ◆人間力を向上するために「学び続ける教師」を支援
- ◆「教員相互の協働性」を高めるネットワークを構築

学校支援事業

センター主事が学校に出向き支援

- ◆校内研修支援
 - ・学校の課題に対応したメニュー
 - ・年間を通じて随時受付 少人数にも対応
- ◆学校訪問支援
 - ・教科指導の課題や授業改善に対応
 - ・教育事務所と連携し、要請に対応

メニュー
リニューアル

研究調査事業

喫緊の課題・時代を先取りする研究

- ◆プロジェクト研究の推進
 - ・公的で提案性のある研究
 - ・センター研究発表会での成果発信
- ◆関東地区教育研究所連盟長野大会の開催
 - ・県外の教育機関への研究の発信、各機関との連携強化(5/12, 13開催)

2/17(金)
発表会

教育情報事業

学校で使える教育情報を配信

- ◆ホームページの充実と利便性アップ
- ◆「学びの広場」にて様々な問題や学力向上に関わる情報を掲載
- ◆センター通信「しのめ」にて、最新情報や校内研修で使える資料を配信

検索

教育相談事業

学校と連携した教育相談を推進

- ◆生徒指導・特別支援教育の視点を生かした児童生徒、保護者、教職員の相談に対応
- ◆研究や学校の課題について教職員の相談に対応

電話
来所等で
対応

ねえ、学力って何？教えて！⑨

トモニ先生！技術の授業は、生徒が楽しそうに製作をされていていいですね。私の担当している教科は、生徒の「学力向上」に向けて大変ですけど、技術は、そういうことを考えなくて楽しい製作に専念できてうらやましいです。

ちょっと待ってください。技術では「ものづくり」を大切にしていますけど、もちろん「学力向上」に向けても取り組んでいますよ。もしかしたらミガコ先生は、国語や数学等でつける力だけが「学力」だと思っていないですか？

それは……。では、技術の授業でどうやって「学力向上」を図っているのですか？教科は違うけれど参考にしたいので、是非教えてください。



トモニ先生



ミガコ先生

技術分野編

「学力の三要素」は、①基礎的・基本的な知識・技能②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度ですよね。つまり、知識・技能を教え込んでも、それだけでは学力が付いたとは言えません。技術も同じです。私は以前、作品を完成させるために技能面ばかりを重視していました。でも、のこぎりやハンダごてを使う技能だけを高めても、「生活に生きて働く力」にはなりません。思考力・判断力・表現力を育むことも必要だと気付いたのです。

確かに今、のこぎりはあまり使っていません。「学力向上」には思考力・判断力・表現力を育むことも大切ですね。では、具体的にどうしていますか？

技術は実物を基に、どのように製作するかなどを考えられる良さがあります。決められた通りに製作するだけでは不十分です。製作と生活を関わらせて考える時間をとったり、自分の考えを図や表等に表し、それをもとに班で話し合う場を位置付けたりして、思考力・判断力・表現力が育める授業にしようと心がけています。

自分の考えを書き表すことや、それをもとに話し合うことはどの教科でもできることですね。私も大切にしていきたいです。

技術分野では、「ものづくり」を通して「学力向上」を図ります。「ものづくり」だけが目的ではないので、授業が単なる「工作教室」や「パソコンの使い方教室」になっていないか、改めて振り返ってみることが大切ですね。



平成 27 年度長野県総合教育センター研究発表会

～多様化する教育現場の課題に対応する教員の指導力向上のために～

平成 28年 2月 19日 (金) 実施



今年で4回目を迎えた長野県総合教育センター研究発表会。

花岡清二氏の講演会や所長との対談、各プロジェクトの研究発表やワークショップ、3つの課題別分散会などに、県内外から200名を超える皆様にご参加いただきました。

講演「産業とイノベーション」・所長との対談

セイコーエプソン株式会社 相談役 花岡 清二氏



<分散会 1>

- A 「次世代型能力の育成に向けて」
- B 「今日からできる不登校への対応」
- C 「学力向上につながる家庭学習とは」

<分散会 2>

- D 「『特別の教科 道徳』へのアプローチ」
- E 「頭をアクティブにする協働的な学習のポイント」
- F 「主体的な学びにつなげるICT利活用」



- 普段話を聞くことのない産業界の話が聞けて、視野が広がりました。自分の育てている子の将来を見通して教育していくことが大事だと感じます。(講演会:50代・小)
- 産業の分野、イノベーションに関わる貴重なお話が聞けた。社会に出ていく子どもたちをどう教育するか、参考になった。(講演会:30代・中)
- 他校の事例を参考にして、生徒が主体的に動ける教育の指導法のヒントになった。(分散会A:40代・高)
- 不登校への取組は、全学級で日々の授業や教室環境を見直すことから始まるということを大切に、実践していきたいと思いました。手引をしっかりと読み、職員同士でも共有できるように研修の報告をしたいと思います。(分散会B:20代・小)
- 改めて宿題のあり方を見直す機会となりました。(分散会C:40代・中)
- 実践発表をお聞きし、発問の大切さを改めて感じた。ねらいや子どもの実態に応じて、発問を考えることが大切であり実践していきたい。(分散会D:30代・中)
- 形式よりも力を身につけること、その力というのが課題を解決していく力であると確かめさせていただいた。(分散会E:50代・中)
- ICT 機器を活用することによって、子どもたちのもっている様々な能力を導き出すことができると感じた。(分散会F:40代・高)

年度末も近づく中、多数ご参加いただきありがとうございました。また、アンケートに御協力いただき、貴重なご意見ご感想を数多く頂戴しました。あわせて感謝申し上げます。

